

発達段階に適した課題設定

高橋 るみ子
中間 千恵子

〈研究目的〉

楽しく、やさしく、かつダンスの本質に直接ふれることができる「課題学習」に於いて、“課題の設定”がその授業の成功・失敗に大きく関わっていると実感される。より効果的な“一時間完結授業”を行うには、小学生にどんな課題を設定したらよいか？中学生・高校生は？

本研究では、「課題学習」に10年間取り組んできた宮崎県女子体育連盟の会員の授業実践がその答えを出していると考え、この実践結果をもとに“発達段階に適した課題”を探り、今後の学習指導の指針を得ようとするものである。

〈研究方法及び対象〉

県内の女子体育連盟の会員に無記名のアンケートを実施、101名（保育園-16名、小学校-15名、中学校-41名、高校-25名、大学-4名）の回答を得た。内、「課題学習」の実践経験者は80%である。このアンケートでは、1)「課題学習」を始めた動機、2)実践した全ての運動課題とその成功or失敗、3)実践した全てのイメージ課題とその成功or失敗の3項目について回答を求めた。

〈結果と考察〉

1)「課題学習」を始めた動機

「課題学習」実践者101名の20%が、『第17回全国女子体育大会（宮崎大会）』S.58を動機としている。また、県女子体育連盟主催で毎年続けられている『宮崎県女子体育研究会』・『夏期実技研究会』も多くの会員の実践のきっかけになっている。このことより、「課題学習」の発展に当県の女子体育連盟の活動が大きな影響を与えていることがわかる。

2)実践した運動課題とその成功or失敗

運動課題は全体で57種類、発達段階が上になるに従って種類が増している（保-23、小-33、中-49、高-49、大-57）。なかでも「走-止」「走-跳」の動きを含む課題は全ての発達段階の実践者の80%が試み、「伸-縮」「固-離」の動きを含む課題も実践者の50%以上が取り組んでいる。課題の実践率より「走-止」「走-跳」「伸-縮」「固-離」の4課題は、運動課題の基本的なものであると考えられる（表1参照）。

さらに57種類の運動課題を“運動-変化-連続”“群-構成”“その他”に分類し、実践数を比較すると、“運動-変化-連続”が全ての発達段階で多く、年齢が上がるにつれ“群-構成”“その

他”の課題の占める率が大きくなっている（表2参照）。

今回のアンケートでは、全ての実践課題に、授業に取り上げて成功したと感じたものに○印、失敗したと感じたものに×印、どちらともいえないものには無印を記入してもらった。その結果、保育園は「走-跳」「走-止」「伸-縮」の順に○印も×印も多く、小学校は“群-構成”の課題の「見」に○印が多く、「捻-回」に×印が多くみられた。中学・高校・大学は共通して「伸-縮」の成功感が高く、「日常動作」の失敗感が高かった。また中学では「集-離」、高校では「始-中-終」、大学では「見」にも○印がみられた。実践者の半数以上が○印をつけた課題は、保-3、小-6、中-19、高-26、大-5であり、同様に×印をつけた課題は、保-2、小-1、中-3、高-4、大-0である。

以上のことより、実践率が高く成功しやすい課題の特長をまとめると次のようなことが言える。

保-移動を含む運動量の多い課題

小-幼児よりさらに運動量が大きく、ひとつひとつの動きがはっきりした運動を組み合わせた課題、基本的な“群-構成”課題

中-移動は少ないが、内的な表現に向かう課題
高-変化と長さ加わり、作品創作の基礎となるようなミニ作品的なものに進む課題

3)実践したイメージ課題とその成功or失敗

イメージ課題は、保-80、小-70、中-168、高-102、大-71種類づつ出された。これらのイメージを『日本女子体育連盟紀要82-1』のイメージ用語の分類に従って分類すると、「物質」「自然」は全ての発達段階が多く、逆に「感覚」は全ての発達段階で少なくなっていた。また大学を除くと「夢・物語」は発達段階が低いほど総イメージ数に占める率が高く、対して「感情」は発達段階が高いほど総イメージ数に占める率が高い（表3参照）。

これらを「自然現象」「生活事象」「思想感情・抽象」に分けてみると、「自然現象」がやや多い高校以外は「生活事象」に含まれるイメージが多くなっている（表4参照）。

各発達段階で実践者の50%以上が取り組んだイメージ課題は以下のものである。

保-かめ・カエル・おたまじゃくし・木の葉・
どんぐり・アサガオ・木・風・ふうせん・
ボール・ゴム・花火・洗濯物・飛行機・こ
ま・砂（17）

小-波・風・戦い（3）

中-波・火山（2）

高-雪（1）

大-鳥（1）

次に各発達段階だけにみられるものとして

保-かめ・おたまじゃくし・ウサギ・だんご虫・
フラミンゴ・いも虫・どんぐり・砂・ガム
テープ・カレーライス・ビーチボール・も
ちつき・どろぼう(14)

小-てんぶら・空気入れ・電車・道路工事・新
聞紙と遊ぼう(6)

中-雲・夏・海底・夕立・大地・納豆・掃除機・
原爆・雑踏・大掃除・働く人々・人・成長・
心臓・暗闇の中で・祈り・平和・心・苦悩・
芽生え(20)

高-群れ・大木・霜柱・葛藤・苦しい・現代社
会・私は今(8)

などがあつた。以上のことから、発達が高い段階
では、特に中学では非常に多種多様なイメージが
課題として取り上げられていること、保・小は運
動課題と同様に動きがはっきりして変化のある
イメージ、運動量の大きい動きを含むイメージ
が課題になっていることがわかる。

運動課題と同様に実践者の50%以上が○印をつ
けた課題は、

保-「物質」(機械・もち・火)

小-「物質」(砂鉄・油)

「人と生活」(心臓・大掃除)

高-「物質」(氷、糸)

「自然」(凍る-溶ける・火山)

であつた。少数ではあつたが中・高に於て「感情」
(対立・芽生え)、「抽象」(パニック・現代社
会)など内面に触れるイメージ課題にも○印がみ
られた。反面×印が実践者の50%であつたイメ
ージ課題は、保-1, 小-1, 中-3, 高-1と非
常に少なく、理由としてそれぞれの指導者が対象
にふさわしいイメージ課題を選択していたことが
考えられる。

〈まとめ〉

発達段階に適した課題を探すことを目的に、運
動とイメージの両面から“課題数”“実践率”
成功 or 失敗”について、発達段階に触れながら
比較・検討してきた。しかし“成功or失敗”に関
しては、実践者自らの判断にまかせ、何ら基準を
明記しなかつたため、非常に主観的なものになっ
ている。が、県内の会員は常に研究授業などを通
じて「課題学習」に接しているため、その“成功
or 失敗”については同一の尺度を持っていると
考え、今回は考察の一視点として扱った。今後は
この点もさらに考慮を重ねると共に、今回“課題
数”“実践率”“成功 or 失敗”の3観点から見
出した課題が、ほんとうに各発達段階に適した
ものであるのか否かを一回一回の実践で明らかに
していきたい。

(文責 高橋)

(表1) 実践運動課題数の順位 発達別比較1

* ()内の数字は課題総数

順位	保	小	中	高	大
1	走-止	走-止	走-止	走-跳	走-止
2	走-跳	走-跳	走-跳	走-止	固-離
3	伸-縮	伸-縮	固-離	固-離	走-跳
4	固-離	固-離	伸-縮	伸-縮	伸-縮
5	揺-保	日常動作	個-群	個-群	見
6	日常動作	個-群	日常動作	捻-回	個-群
7	(70)	見	揺-保	見	振
8		捻-回	見	日常動作	揺-保
9		集-離	捻-回	集-離	高-低
10		手	手	揺-保	7MV
		(149)	群-群	(324)	(83)
				(358)	

(表2) 実践運動課題数の順位 発達別比較2

課題	保	小	中	高	大
運動-変化-連続	83%	64%	58%	60%	59%
群-構成	17%	25%	31%	26%	29%
その他	0%	11%	11%	15%	12%

(表4) 実践イメージ課題数の発達別比較2

イメージ語の分類	保	小	中	高	大
自然現象 (動物、植物、自然)	46%	32%	40%	44%	39%
生活事象 (物質、人と生活、 遊び・スポーツ)	51%	60%	44%	35%	51%
思想感情 (夢・物語、感情、 感覚、抽象)	3%	9%	15%	25%	14%

(表3) 実践イメージ数の発達別比較1

* 数字は総数

順位	保(193)	小(135)	中(433)	高(206)	大(79)
1	物質	物質	物質	自然	物質
2	動物	自然	自然	物質	自然
3	植物	人と生活	人と生活	人と生活	人と生活
4	自然	遊・スポーツ	感情	感情	動物
5	夢・物語	夢・物語	植物	抽象	夢・物語
6	人と生活	植物	動物	植物	遊・スポーツ
7	遊・スポーツ	感情	遊・スポーツ	動物	感情
8	感情	動物	抽象	遊・スポーツ	抽象
9	感覚	感覚	夢・物語	感覚	植物
10	抽象	抽象	感覚	夢・物語	感覚